

教育事業「阿蘇の草原キッズになろう ～秋編～」事業報告書

企画指導専門職 加治佐 秀樹

1 事業概要

(1) 実施期間

平成27年9月29日(火) ・ 10月6日(火) 【2日】

(2) 活動場所

国立阿蘇青少年交流の家及び周辺牧野

(3) 参加者

宮地小学校5年生66名 引率者5名

※ 草原環境学習小委員会4名、ボランティア6名、

(4) 事業内容

9月29日：午前 町古閑牧野、ポスターセッション、来訪者に草原を伝えようプロジェクトの2つ
午後 草泊まり作り、草原クラフト

10月6日：午前 赤牛とのふれあい体験学習
午後 草原劇、紙すき体験、草原クラフト

2 成果と課題(含むボランティアの意見)

(1) 成果

○ 阿蘇市内の環境保全にかかわる団体との連携事業のため、すべての活動において、専門的にかつ児童に分かりやすい内容で、深く充実した活動プログラムができた。

<草原プロジェクトの室内プログラムの活用>

- ・ 昨年度、室内プログラムを実施したが非常に効果があったので、本年度は紙芝居の形で実施した。活動班を少数にすることにつながり、個々の活動を深めることができた。

<草泊まりづくり>

- ・ 手を使ってススキを束ねる作業を繰り返すことによって少しずつ慣れた。また何度もそれを運びながら、友達と協力して草泊まりを作り上げることができた。作業の大変さと充実感を味わうことができた。

<草原クラフト(ススキのコースター)>

- ・ 草泊まりづくりをする際の裏メニューとして設定した。草泊まりの作業をする子と明確に分けたので、これまでに比べ、草泊まりづくりを2時間近く短縮することができた。

<草原劇>

- ・ 草原の歴史、現状、保全等について児童が理解しやすいよう、学習小委員会メンバーによる劇を行った。児童・先生ともに、「草泊まりを作っていた意味がよく分かった。」や「楽しく学べた。昔の人の知恵が分かった。」等、とても好評であった。

<赤牛とのふれあい体験>

- ・ 牧場に入っの餌やり体験や牛の背へのネーミング等、児童にとって貴重な体験ができた。児童もたくさん質問し、組合長のこたえを真剣に聞いていた。

(2) 課題

- 学校の年間計画の中にしっかりと計画を入れてもらうようにしなくてはならない。各校の年度計画段階から働きかけていく必要がある。
- 草泊まりづくりの裏メニューとしてクラフトをするには、手間と労力がかかりすぎるので、簡単にできる内容のものを見つけておく必要がある。
- 草原劇は当初計画から外していたのだが、小委員会からの要望で実施することになった。職員が練習する時間も無い中で、今後実施していくのであれば、小委員会の方々の協力がなくてはきびしい。
- 草泊まりを作成する際の準備段階からの流れを考慮しておかなくてはならない。草を刈る場所、刈り方等いろいろある。教えていただいた内容は、データに残して、来年度担当に引き継いでおく。
- フィールドワークをできるかできないかで成果が大きく左右される事業である。雨天プログラムになってしまった場合でもそれなりの成果をあげるようなプログラム開発が必要である。

事業中の様子



町古閑牧野での学習の様子



草原学習室内プログラム紙芝居 ver



ススキのコースターの説明



ススキを運ぶ参加者



草泊まりづくりの様子



草泊どまりを体験する児童



牛へのえさやり体験



牛の背にメッセージ書き